

第20回警防活動教育を実施しました

〔期 間〕 令和7年5月27日（火）から6月4日（水）まで
7日間（56時限）

〔会 場〕 埼玉県消防学校

〔到達目標〕 厳しい条件下において、警防活動を遂行し得る旺盛な
士気の下に基本的知識と技術の向上が図られ、警防隊員
として適切かつ効果的な消防活動ができる。

〔教育対象〕 警防活動に従事させようとする者で、初任教育修了者
かつ採用後3年以上の消防経験を有する35歳以下の

〔修了者〕 25消防本部（局）60名



第 2 0 回 警防活動教育 日課表

自 令和 7 年 5 月 2 7 日 (火)
至 令和 7 年 6 月 4 日 (水)

月/日 (曜)	小隊	1 時限目 8:40～9:30	2 時限目 9:30～10:20	3 時限目 10:40～11:30	4 時限目 11:30～12:20	5 時限目 13:20～14:10	6 時限目 14:10～15:00	7 時限目 15:20～16:10	8 時限目 16:10～17:00	備考
5/27 (火)	1 2	入校式 校内サービス	総括講話	安全管理 (講義)	ホース 延長要領 (講義)	学生面談／車両説明／VR／資 機材管理／技能確認			警防活動教 育 総合展示	1日目 入校式
5/28 (水)	1 2	実火災座学	注水技術	実火災注水	撤収	火災性状 (入間東部講師)		吸気排気訓練		2日目
		火災性状 (入間東部講師)		吸気排気訓練		実火災座学	注水技術	実火災注水	撤収	
5/29 (木)	1 2	ホース延長 (実技)			ポンプ運用 (座学)	ポンプ運用訓練 (実技)				3日目
		屋内進入 (座学)	援護注水 延焼防止 (座学)	援護注水 延焼防止 (実技)	三連はしご 取扱訓練 (実技)	屋内進入・救出(実技)				
5/30 (金)	1 2	屋内進入 (座学)	援護注水 延焼防止 (座学)	援護注水 延焼防止 (実技)	三連はしご 取扱訓練 (実技)	屋内進入・救出(実技)				4日目
		ホース延長 (実技)			ポンプ運用 (座学)	ポンプ運用訓練 (実技)				
5/31(土)										
6/1(日)										
6/2 (月)	1 2	木造火災想定訓練 (訓練準備、撤収・整備含む)								5日目
		耐火造火災想定訓練 (訓練準備、撤収・整備含む)								
6/3 (火)	1 2	耐火造火災想定訓練 (訓練準備、撤収・整備含む)								6日目
		木造火災想定訓練 (訓練準備、撤収・整備含む)								
6/4 (水)	1 2	火災総合訓練				効果測定	車両・資 機材整備	校内サービス	修了式	7日目 修了式

入校式



教育支援者対面式



安全管理(講義)



VRゴーグル(講義)



総合展示



火災性状(講義)



実火災訓練(講義)



実火災訓練(実技)



ホース延長訓練



援護注水、延焼防止(講義)



屋内進入・延焼防止訓練(実技)



屋内進入・延焼防止訓練(実技)



吸気排気訓練



耐火造火災想定訓練



耐火造火災想定訓練



耐火造火災想定訓練



木造火災想定訓練



木造火災想定訓練



木造火災想定訓練



木造火災想定訓練



木造火災想定訓練



火災総合訓練



訓練修了



第1小隊 総代 戸田市消防本部 川村 潤

修了しての感想

第20回警防活動教育では「殉職者を絶対に出さない！」をモットーに、ホース延長、ポンプ運用、注水技術を7日間にわたり学びました。火災性状の座学やさまざまな注水要領、安全管理、中隊長、小隊長として指揮統制など短い期間ではありましたが、とても勉強になることばかりで充実した期間となりました。また、VRでの屋内進入の体験、濃煙熱気実火災訓練装置での中性帯、ロールオーバー、濃煙を実際に見ることができてとても貴重な体験をすることができました。

警防活動教育で共に汗を流し、互いに声を掛け合い、支えながら60人全員が無事に最後までやり遂げたことは今後の警防活動の自信と財産になると思います。これからも成長を止めることなく歩んでいきたいと思っています。

本訓練期間中、教官をはじめ、支え応援してくださった全ての方々に感謝の気持ちを忘れることなく、これからも日々精進していきたいと思っています。

後輩へのメッセージ

警防活動教育では失敗を恐れることなく挑戦できます。たくさん失敗し仲間や教官と話し合い、よりよい活動ができるようになります。そして仲間と励ましあい、汗を流しながら活動することで絆も生まれます。また恵まれた環境、施設で、日々の訓練では制限がありできないことも実際に訓練で行うことができます。期間は短いですが、そこで得られるものは一生の財産です。

訓練できることに感謝を忘れずに全力で頑張ってください。皆様のご活躍を期待しています。

第2小隊 総代 比企広域消防本部 強瀬 喬之

修了しての感想

第20回警防活動教育では7日間という短い期間でしたが、とても実りのある教育でした。ポンプ運用、ホース延長、注水技術の習得という3つの目標を掲げ、安全管理、火災性状、VRなどの座学をはじめ、ホーストレーニングや木造・耐火造建物火災を想定した屋内進入、注水方法などの訓練を実施しました。

スポット注水、ペンシリング注水、ドレンチャー放水、環境測定注水など多種多様な注水技術があることに驚き、消火戦術の進化が伺えます。



また、実際にスモークマシンの煙を使用しての吸排気訓練では、水流ベンチレーションによる煙の動きや、ドアコントロールの大切さなどを学ぶことができました。

しかし実際の建物火災で吸気側、排気側を瞬時に判断し、的確な排煙を行うには、正確な状況評価能力、相当な知識・技術が必要ではないかと考えさせられました。

近年、高気密・高断熱の建物が増え、火災が起きた時の延焼スピードが遅くなり、フラッシュオーバーが発生する前に消防隊の現着が考えられる今、ここで学んだことが必ず生きると思います。そして、ますます進化していく消火戦術を積極的に取り入れ、自らをアップデートし、後輩たちに知識伝承していく所存です。

最後に本教育に携わった教官、講師の皆様、訓練の事前準備や安全管理、熱中症対策や講義資料の作成など、多岐にわたり支援、ご指導いただきありがとうございました。

ここで学んだ技術を生かし、住民の生命、身体、財産を守り、殉職者を絶対出さない活動を目指して頑張ります。

後輩へのメッセージ

7日間はあっという間です。学べることがたくさんあり、ボーっとしていると聞き逃してしまいます。訓練時間もタイトで素早い行動が求められるので、時間管理も重要です。そして、訓練ではたくさん失敗してください。私は数えきれないほど失敗し、悔しい思いもしましたが、自分に足りないものを本気で考え、たくさんの失敗から学ぶことができました。是非失敗を恐れず全力で訓練に臨んでください。皆様の活躍を期待しています。

第1小隊 副総代 埼玉西部消防局 桑原 隆吾

修了しての感想

第20回警防活動教育に入校し充実した時間を過ごせました。自身の目標であった、火災防御活動のスキルアップは確実に達成できました。それを実感できるほど、濃密な時間、経験を7日間という短い期間で体感しました。

第20回警防活動教育の達成目標は、「殉職者を絶対に出さない活動」でした。この目標を達成するために、警防活動教育では①ポンプ運用 ②ホース延長 ③注水技術の3つの柱を立てました。この3つの柱を実践的な内容で学び直せたことは、今後の消防人生において大いに役立つと思います。

また、私たちが学んだことが各所属に伝わり、埼玉県の消防のレベルアップになることが、警防活動教育に携わった方々への恩返しになると考えています。消防学校で学んだことをひとつでも多く部下に伝えて、伝承していきたいと思います。

最後に、警防活動教育で知り合えた関係は、私の消防人生の宝です。そのような恩恵をもたらしてくれた、消防学校、教官及び助教官の方々に感謝申し上げます。



後輩へのメッセージ

短期間の入校ですが、教官及び助教官が最高の訓練環境を整えてくださり、1日中訓練をすることができます。その中で皆さんがやることは、一生懸命活動し、失敗することです。仲間と考え、失敗し、また話し合うことで、皆さんの警防活動のレベルは間違いなく上がります。失敗を恐れず活動して、目標をもって学校生活を過ごしてください。

第2小隊 副総代 さいたま市消防局 富岡 健人

修了しての感想

第20回警防活動教育を修了し、あっという間の7日間であったと感じています。所属の垣根を超え、同年代の消防職員が集まり、共に学び、訓練し、切磋琢磨できる環境で、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。

今回の教育のメインテーマは、“殉職者を出さない”であり、当たり前のようなことですが、教官・助教から伝わってきたものはもっと重く、そして、本気でこのテーマと向き合っているということでした。燃焼建物に延長された充水ホースの先には仲間がいる。その途中のホースが破損したら？結合が脱落してしまったら？給水にエラーがあったら？…自分たちの活動により、仲間が「死」に直面してしまう可能性があることを再認識させていただきました。

2小隊の副総代として、総代、各分隊長、全体のフォローアップ出来ればと思い教育に臨みましたが、同じ方向を向いた仲間たちに私のフォローは必要ありませんでした。各々が、人のために動く力はこんなに強いものなのかと、学ばせていただきました。

今回、共に7日間を過ごした60名の「個性」がぶつかり合い、歴代No.1の「チーム」が作り上げられたと思います。この作り上げられたチームはまだまだ発展途上です。警防活動教育で学んだことを、さらに上書きし、共有・成長していけるよう努めていきます。



後輩へのメッセージ

警防活動教育では、教官・助教からの指導だけではなく、学生同士からも多くの事を学ぶことができます。思いっきり訓練のできる環境で、同年代の消防職員同士のみで隊を編成し、警防活動を行えることは、なかなか無い経験だと思います。この経験は、所属に戻った時に、自分の自信につながるものだと思います。

特に警防活動教育は、年齢などの参加条件もあるので、参加を検討している方は、ぜひ積極的に手を挙げて参加してほしいと思います。私たちは、先輩でありつつ、仲間です。ともに、埼玉県消防力の向上に貢献できるよう挑戦していきましょう。